

オフィス山田の 手作りパソコンネットワーク



The Road
to
Windows95

オフィスで複数のパソコンを使っていて、そのうちの1台にモデムをつないでいたとしても、隣のパソコンのファイルを見るために移動しなくてはならない。インターネットと騒いで始めてみたものの、アクセスするホスト局が1つ増えたのと変わらない。そんな環境にある人のために、本当のインターネット環境とは何か、どうやって作るのか、身近なところから解説していこう。

Vol.1 複数のパソコンをつなぐということ(上) ローカルネットワークがあれば隣のパソコンのファイルが見える

山田祥平

コンピュータとあまり縁のない一般の人たちの間では、インターネット=WWWみたいな図式がすっかりできあがってしまったようだ。多少の知識があったとしても、モザイクでWWWサーバーを渡り歩くネットサーフィンだけでインターネットのすべてを堪能したつもりになってしまう。これは、とってももったいないのではないだろうか。

とくに、パソコンとモデムでインターネットを使わざるをえない多くのユーザーの中には、旧来のパソコン通信サービスが積極的に提供ようになってきているtelnetやftp、ネットニュース、電子メールといったアプリケーションだけでは満足できず、なんとか、ほかのインターネットプロバイダーの会員になろうとしている人もいる。彼らにとっては、PPP接続でモザイクを使わなければインターネットじゃないのだから。

その気持ちは、わからないでもない。たとえば、あるホストから別のあるホストにtelnetしようにも、相手先のコンピュータは自分が会員になっているホストだとすれば、結局は2つのサービス、両方の使用料金を支払うことになってしまう。そのくらいなら、電話をかけなおしたほうが結果的に安くつく。

また、ftpで巨大なファイルをダウンロードできたとしても、28.8Kbps程度のスピー

ドでは、電話代や所要時間などを考えると、CD-ROMを買ったほうがずっと早い。かといって、プロバイダーに登録して、ダイヤルアップIP接続ができたとしても、電子メールの受け取りには、自分のドメイン名を持てるわけじゃない。プロバイダー名を冠にした電子メールアドレスしか取得できないのなら、パソコン通信サービスの電子メールと同じだ。

などなど、便利さと紙一重で、諸問題が残っていて、いまひとつ、インターネットの存在を身近なイメージでとらえきれない。少なくとも、バラ色の世界とはちがうようではある。

じゃあ、パソコンユーザーにとってのインターネットというのは、いったい何なのだろう。

この連載では、そのあたりを実感するために、とにかく、インターネットを自分のうちの中に作る作業を始めてみようと思う。何のことはない。要するに複数台のパソコンをつないだローカルエリア・ネットワークを作り、インターネットプロトコルでつないでみようというわけだ。そして、それで得られる環境がいったいどんなものなのかを紹介することにしたい。まずは、ローカルでうまく使ってみようという発想だ。

最終的には、そのローカルのネットワー

クをなんらかの方法でインターネットに接続する。専用線を引くかもしれないし、ダイヤルアップかもしれない。いずれにしても、ごく普通のマンションに、住居兼事務所をかかえるようなフリーライターが、インターネットを自分の仕事に生かすためには、いったいどのような環境を作ればいいのかを模索していきたい。

このケーススタディは、数人のスタッフで仕事を進める現場...それは会社1つかもかもしれないし、あるいは、1つのセクションかもしれない...が、インターネットをグループワーキングにどう生かすかのヒントにもなると思う。

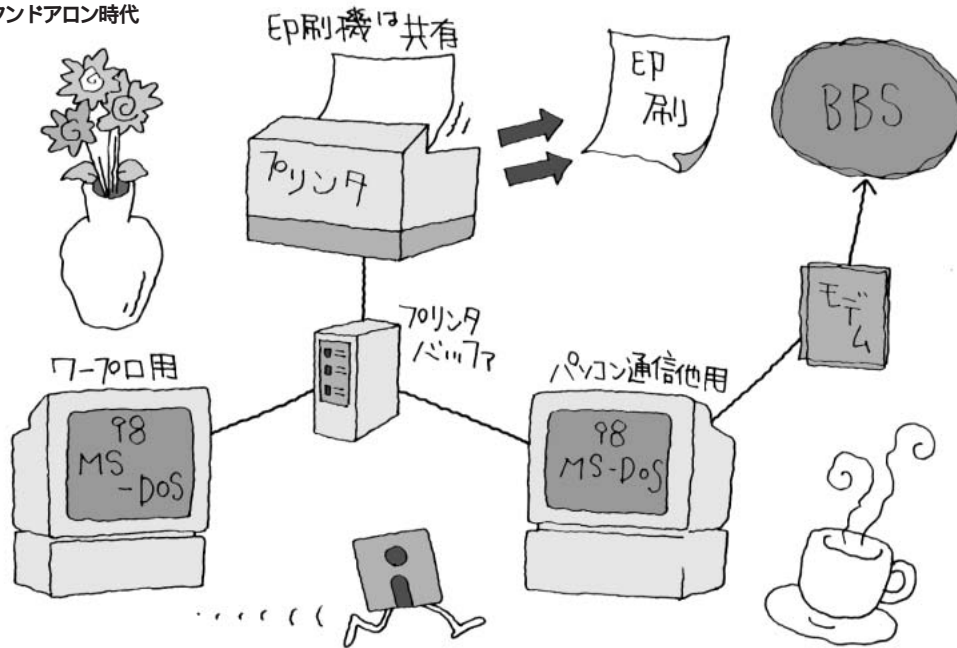
優れたアドミニストレーターがいて、すべての面倒を見てくれ、ユーザーはユーザーに徹していればよいような大企業ではなく、とりあえずは、自前で何でもやらなければならない、もう少し小規模な組織に役に立つような記事にしていきたいと思っている。

スタンドアロン環境 オフィス山田の場合

まずは、ノートブックパソコンを含め、複数台のパソコンがあり、それぞれがスタンドアロンで動いている状況からのスタートだ。

ほとんどの場合と同じ道をたどってきた。とくに、MS-DOSをプラットフォームにして

オフィス山田のスタンドアロン時代



いた時代は、一度に複数のアプリケーションを動かしたり、それらを切り替えて使うというわけにはいかなかった。常にパソコンは2台を用意し、片方はほぼワープロソフト専用にして原稿を書き、そして、もう片方は、パソコン通信をしたり、原稿のネタとなるアプリケーションを動かすために使ってきた。書きあがった原稿はフロッピーディスクにコピーし、もう1台のパソコンに持っていき、アーカイブで圧縮、ishなどのツールを使ってテキスト化して送信する。バイナリーファイルを電子メールで気軽に送れるようになったのは、つい最近のことだ。

印刷に関しては、メルコのプリンタバックファを使っていた。この機器には、2台のパソコンと1台のプリンタを接続しておくことができ、どちらのパソコンからでも印刷ができた。同時に印刷を開始したとしても、タッチの差で早くデータが届いたほうの印刷ジョブからプリントが開始され、もう片方のパソコンは待たされる。これはこれで便利な周辺機器ではあった。うちでは、PC-9801VM2 × 2台から、PC-9801ES2 × 2台の2世代にわたって、この環境で満足してきた。

いずれにしても、フロッピーディスクなど

という原始的な方法で、パソコンとパソコンの間で、データを持ち運んでいたわけだ。まだネットワークを組んでいない現場では、事情は似たようなものじゃないかと思う。

ぼくの場合は基本的にほとんどの作業を1人でこなすので、それほど混乱することはなかった。しかし、複数のメンバーで構成されるスタッフが共同のプロジェクトにたずさわっている場合、共有するデータファイルが、どのような状態でメンバーに行き渡っているのかを考えてみよう。意外と多いのが、紙に印刷された企画書や報告書というオチになったりしてないだろうか。いや、その報告書を印刷するのでさえ、高品位印刷ができるページプリンタが1台しかなく、それがつながっているパソコンのところまで、フロッピーディスクを持って移動なんてことにはなっていないだろうか。

問題は、手間のことよりも、アップデートが同時に行われないことだ。最終更新日付の違う、少しずつ内容の異なる書類が存在することは、トラブルを誘引するにちがいない。

ネットワーク環境 オフィス山田の模作

ネットワークは、パソコン、そして、そ

れに接続された周辺機器類を共有する環境を提供する。

さらに、きわめて便利なコミュニケーションツールを提供する。

要するに、今、ぼくらがインターネットやパソコン通信サービスを使って、アカの他人と享受している環境である。これらの環境がとても重宝することを、外部との接続で体感してわかっていても、内輪のネットワーク構築には着手さえしていないというのが常である。

インターネットでは、そこに接続されたコンピューターのユーザーそれぞれが、自分で必要な情報を得るために、ほかのコンピューターを使ったり、あるいは、自分で情報を公開することができる。そういう意味では、すべてのコンピューターは対等であるといえるだろう。

オフィスに散在するパソコンもそうあるべきだと思う。誰もが情報を公開ことができ、誰もが、その情報にアクセスすることができる。もちろん、セキュリティのことをきちんと考え、人に見せたくないデータ、あるいは、見られては困るデータも存在する。それをうまくパーミッションコントロールするための仕掛けは必要だ。

うちでは、その後、ご多分にもれず、

PC/AT 互換機を2台導入し、常に2台を使っていた98シリーズは、1台だけとなった。

最初に手に入れたのは、Windows for Workgroups のスターターキットだった。このパッケージには、インテルのネットワークインターフェイスが2枚添付されていて、ボードをセットし、ケーブルでつなぐだけで、誰でも簡単にネットワークが組めるようになっていた。つないでみたところ、あまりにも便利で、ネットワークとは、こういうものなのかと感動した覚えがある。なにしろ、隣のパソコンのハードディスクが、まるで手元のパソコンにつながっているかのように利用できるのだ。

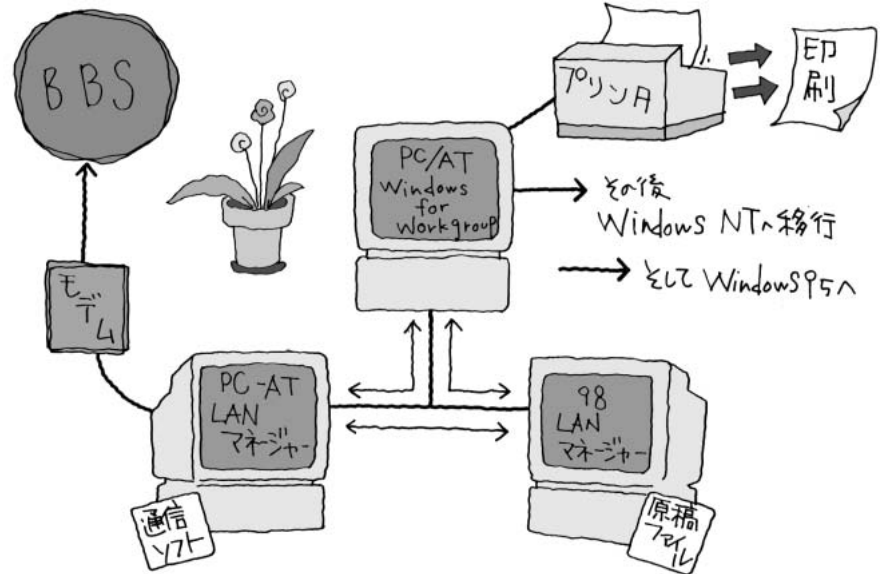
残念ながら、Windows For Workgroups は、日本語化されなかったが、そのころ、Windows NT 3.1 のテストが始まり、ほくもそのテスターの一人として、試験運用を始めることになった。PC/AT 互換機1台で Windows NT を動かす、その他のパソコンでは、Lan Manager のクライアントソフトを使って、NT にアクセスする。インテルのネットワークインターフェイスは、そのまま利用できたし、98 用にはアンガマンバスのカードを買ってきた。とりあえず、こんな感じで、まがりなりにも、3台のパソコンで構成されるネットワークが我が家にできあがったわけだ。現状では、このネットワークは、もう少し規模の大きなものになっている。NT も 3.5 となり、まとも動き出した Windows 95 の版のおかげで、すべてのパソコンが対等に情報を共有できるピア・ツー・ピアのネットワークができあがった。このあたりは、読者諸氏にとっては、非常に興味のあるところではないだろうか。

気になる Windows 95 次回に乞うご期待

この連載は、半年にわたって続ける予定になっている。

まず、今回は、1つのオフィスや部屋、自宅などに散在しているパソコンを、物理的に接続するための基本的なポイントについて話を進める。とりあえず、現状のうちのネットワークを紹介し、今、最もリーズ

オフィス山田初めてのローカルネットワーク



なブルなネットワーク環境を Windows NT と Windows パソコンで作るためのノウハウを紹介していくつもりだ。サルでも組めるネットワーク的なレベルでやっつけていこう。

第3回目は、ローカルエリア・ネットワークでのコミュニケーションの話。cc:Mail や Microsoft Mail などの電子メールシステムについてふれていく。

第4回目は、PC-UNIX の話。インターネットのドメイン名を取得して、インターネットメールが、ちゃんと自分のところに届くようにし、そのPCも、既存のLANにつないでしまう。

第5回目は、インターネットメールと、パソコンのメールシステムとの間のゲートウェイの話。この頃には、Windows 95 のスペックもほぼ確定し、ひとつのソリューションとして、この新しいオペレーティングシステムが、インターネットやLAN に対してどのような便宜を図ってくれ、どう使えるのかがはっきりしているだろう。トレンドでもあるので、Windows 95 については、随時ふれていくつもりだ。

第6回目は、LAN のインターネットへの本格的な乗り入れの話。専用線を使うのか、ISDN でダイヤルアップするのか、そして、どこにつなぐのか。そのあたりの損得

勘定ともに、どうするのが、最も合理的かを考えていく。

日本では、ネットワークの普及がずいぶん遅れてしまった。「ネットワークする」というと、ニフティサーブや PC-VAN といった各大手商用パソコン通信サービスのホストコンピュータにアクセスし、各種のアプリケーションを利用することを指すような文化ができてしまったくらいだから、相当のものだ。

インターネットもまた、このパソコン通信の延長と考えてしまうと、それが秘めた大きな可能性を見失ってしまうことになりかねない。先見性のある企業は、インターネットをどうビジネスに生かせるかをすでに模索し始め、実際に行動を起こしている。そのビジネスが成功するかどうかは、ほくらのようなインターネットパンピー（インターネットに対するマニアではない一般ピープル）が、どんな意識改革をするかにかかっている。

6回という短いスパンでも、インターネット、そして、パソコンシーンを取り巻く状況は、めまぐるしく変わっていくだろう。できるだけ、最新のトレンドもあわせて紹介できるようにしていきたいと思っている。どうか、ご愛読くださいますよう。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp